



TITLE:

割地ト村落制トノ關係

AUTHOR(S):

牧野, 信之助

CITATION:

牧野, 信之助. 割地ト村落制トノ關係. 經濟論叢 1917, 5(4): 519-533

ISSUE DATE:

1917-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127275>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷五第

行發日一月十年六正大

論說

物價變動ノ原因(一).....

法學博士 河上

錦治肇

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(二).....

法學博士 田島

正雄

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(三).....

法學博士 神戶

正雄

同盟罷工ト和解及仲裁制度(二).....

法學士 河田

祐馬

墨子ノ經濟思想(一).....

法學士 小島

祐馬

割地ト村落制トノ關係.....

法學士 牧野

信之助

現代の保險ノ成立(三).....

法學士 小島

昌太郎

時事問題

米國ノ參戰.....

法學博士 戸田

海市

物價調節ノ意義及効果.....

法學士 河田

嗣郎

雜錄

りすとノ經濟發達階段說.....

法學士 本庄

榮治郎

各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢.....

法學士 山本

美越乃

戰後ノ太平洋定期航路.....

法學士 小島

昌太郎

朝鮮ノ關稅ニ就キテ.....

法學博士 神戶

正雄

露國ノ定期刊行物ニ就テ(三).....

文學士 高倉

輝

しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ.....

文學士 長壽

吉

割地ト村落制トノ關係

牧野 信之助

目次

- 一、割地發生ノ年代トソノ起源
- 二、山わけ及び苗分
- 三、圖組數ト五人組トノ關係
- 四、割換ト村落制
- 五、現今ノ割地慣行地

割地發生ノ年代トソノ起源。割地即チ土地ノ定期割換慣行ニツイテハ、余輩嘗テ少シク之ヲ攻究シ、殊ニソノ起源ニ關シテ所見ヲ述ベタリシガ、○國家學會雜誌第二十五卷第四號所載拙稿「割地起源論」、同第二十六卷第十二號所載拙稿「越後國割地制度ノ起源ヲ論ズ」參照其後蒐集シタル史料中、前說ヲ補フベキモノアリ、以下此等ノ史料ヲ綜合シテ、該制度慣行ノ理由、殊ニ村落制度トノ關係ニツキ、更ニ説明ヲ加フルモノアラントス、但シ各地ニ亘レル多數史料ノ整理ハ、目下ソノ餘暇ナキガ爲メニ、暫ク範圍ヲ越前一國ニ限定スルモノナリ。

割地慣行ノ始期ハ何レノ時代ニアリヤ、余輩前ニ越後國ノ場合ニ於テ之ヲ慶長年間ニ擬シ、加賀藩ニアリテハ寛永年間ニ施行セラレタリトナセリ、今越前ノ場合ニアリテハ、二三ノ頗ル信憑スベキ史料ヨリシテ、寛永前後ニ起源ヲ有シ、漸次之ニ倣フモノアルヲ明カニスルヲ得タリ、例之今立郡北小山ノ一部ハ寛永年度ニ行ハレシコト御裁許繪圖裏書ニ「寛永年中福井領主より百八

石の改出しを請、其節百姓申談、内分にて致檢地、持高甲乙無之様に割合、高請致し候故、町歩之増減石盛の高下致出來候由、百姓内檢地之事故、寛永享保高改牒之畝歩石盛共ニ難取用候「トアルニヨリテ推測セラレ、同郡岩本村ニアリテハ寛文九年實施セラレシコト、村民連名ノ規約書地割之覺一通アリテ之ヲ證セリ。

此等ノ各地域ニ於ケル該制度ノ傳來的關係ハ暫ク別トシテ、割地ノ發現ガ近世ノ初期ニアルハ最早疑ヲ容ルベキ餘地ナキカ如シ、斯ル斷案ハ上ニ示シタルガ如ク、所在傳フルトコロノ證書ニヨリテ之ヲ認ムルヲ得、又近世村落制トノ關係ニヨリテ察知セラルベキナリ。

戰國時代ノ苦キ經驗ヲ經タル近世村落制度ノ特徵ハ、云フ迄モナク著シク自治的ノ傾向ヲ帶ビシト共ニ、領主殊ニ徳川幕府ノ緻密ナル法令ハ一村トシテノ連帶責任ノ觀念ヲ頗ル重大視セシメタルコトナリトス、例ヘバ領主ニ對スル義務——一定ノ村高ニ對スル納貢ハ一村トシテ之ヲ完納セシメザルベカラズ、所々ニ傳ハレル散田百姓御高上證文帳ヲ見ルニ「右某去辰年御納所米相滞申候ニ付御詮議差詰リ御未進處百姓之内鬪取被仰付候處則右某鬪取當申ニ付持高被召上家跡道具入札被仰付拂代銀之義ハ御未進之内御取入相殘御未進捨リ相極本人親兄弟共村御追放被遊御高村中に割賦被仰付則別帳面指上申候然上者當已夏成より無恙御納所相遂可申候(下略)」元文二年巳十月十日附村方文書ノ例アリ、年貢ノ未進アリタル場合ニハ、斯クノ如キ犠牲者ヲ出シテマデモ、之ヲ以テ一村ノ總崩レヲ防ギ、併セテ領主ニ對スル義務ヲ果セルナリ、サレバ例年ソノ田畑ニ水損ヲ蒙リ、若シクハ地味ノ變動ヲ常トスル村方ニアリテハ、豫メ一村トシテ此等ノ損害ヲ均分スベキ方法ヲ

案出シタリシハ、極メテ自然的ノコトト云ハザルベカラズ、割地發生ノ一原因ハ正ニカカル事情ノ下ニアルベキナリ。

例ヘバ日野川ノ流域ナル南條郡北杣山村鑄物師ノ場合ニアリテハ、延享元年十二月内檢願事ト題セル訴狀ニ、「一、鑄物師新村御檢地御高八十四石餘之御田地年々川缺石砂入水損之場所出來百姓持高不陸に罷成候ニ付五年以前惣百姓納得相談之上内檢水口割仕り不陸無之様に仕り其節相究候ハ又候川缺石砂入水損出來不陸に相成候ハ、五ケ年之内ニ内檢仕り田割り仕り田畑荒川原共に鬭取を以て取可申候且又五ケ年之内川缺石砂入れ水損出來候ハ、惣百姓與惣百姓與より指引與内米相渡す旨相定め右之外總百姓入作之者迄納得連引證文相究置候」ト定メタル如キ、全ク連年ノ水災ヨリ來レル損害ヲ公平ニ負擔センガ爲メノ規約ナリトス。

サレバ割地制度ハ後ニ敘述セント欲スルガ如ク、後ニ至リテハ著シク村落制ト融合シタレドモ、ソノ施行ノ初メニアリテハ單ニ貢租ヲソノ所有地ノ高ニ應ジテ最モ公平ニ負擔セシメンガ爲メノ手段タリシカバ、豊臣氏ノ檢地帳、若シクハ諸侯ノ朱印地トシテソノ年貢ヲ免除セラレタル寺社領、由緒アル村民ノ土地ニ至リテハ之ヲ措テ問ハズ、而シテ又假令社寺領分タリト雖、年貢納付ヲ要スル地ハ棹入ヲ要求シ、以テ割地ニ編入シタリキ、以下今立郡岩本村區有文書ハコノ事情ヲ説明スルモノナリ。

地割之覺

一あせくろは棹入申間敷候

一 用水新江筋料米公儀より被下候分棹入可申事

一 堀ハ永荒同事ニ候間打立帳面に記可申候但分米ハ付申間敷候

一 先規より有之候道筋ハ棹入申間敷候事

一 先規より證據正しき寺社屋敷は不及申に但免除之旨申傳候屋敷に候共棹入申間敷候并付り毛付

之田畠或荒地たりとも寺社持分は棹入申間敷候但公儀へ年貢相立候地は棹入可申事

一 敷は棹入可申事勿論御立敷はさを入申に不及事棹取誓書お書

一 棹取申者百姓に對し依怙有之間敷候勿論私之心を以て或棹のへ或棹つめ惣て不正路之儀仕間敷候

寛文九年酉二月二十六日

岩本村 理右衛門

(外三十六名略)

而シテ割換ノ目的トスルトコロ以上ノ如クナレバタトヘ新ニ領主ノ手ニヨリテ檢地ノコト行ハ
ルルニ當リテモ、村民ハ表面ソノ水帳○即チ檢地帳ヲ受ケ、實際ニアリテハ之ヲ用ヒズシテ、割換ノ結
果ヲ以テ直チニ所有高ニ比例シ、割換期間ノ持地ト定メタリキ、次ノ今立郡向新保村百姓連名ノ
起請文ハコノ事實ヲ證スルナリ。

「きしやうもん前書之事

一 今度御檢地被仰付候ニ付御案内帳村中田畑一度ニ仕田畑持地高下有之銘々持地とは相違仕候追
て御水帳被下候由水張之面銘々名付之田畑用意申間敷候三年已前酉ノ二月相究候田地割證文之

通、三年未丑ノ秋より、取懸り、村中居屋敷へ、綱入仕田畑も、割懸り可申事

一何時御水帳被下候共其高唯今迄銘々持來候高へわりかけ可申候
右之條條少にても於背には氏神の御罰可遂者也

寶永四年亥四月十八日

向新保村

友左衛門

(以下略)

然ルニ越前ニ於ケル割地慣行地ノ分布ヲ見ルニ、獨リ河川流域ノ水腐地若シクハ之ト類似ノ原因ヲ有スル地方ニアラズシテ、却テ海岸ノ山地若シクハ平原ノ地ニモ殆ド同時ニソノ發生ヲ見タルモノアリ、「山分ケ」若シクハ「苗分ケ」ト稱スル慣習コレニシテ、割地起源ノ問題ヲ稽フルニ當リ、度外視スベカラザルモノトス、カクシテ又コノ山分ケノ組、即チ割地ノ圍組ニハ、五人組トノ關係アルヲ認メ、又一般ニ割換ノ實施ニ當リテハ、附帶工事トシテ一村ノ利便ノ爲メ諸種ノ土工ヲ併セ行フヲ例トシ、村落制トノ結合ガ如何ニ密接ナルヤヲ知ルニ足ルモノアリ、以下此等ノ各項ニ亘リテ論述スルモノアラントス。

山わけ及ビ苗分。江戸時代ノ初期ヨリ中期ニ亘リテ、越前ノ各地ニアリテハ、山わけ及ビ苗分ノ慣習アリタル事實ヲ證スルニ足ルベキ史料多ク存在セリ、山わけトハ一村ノ山地ヲ村民ニ等分シ、苗分ケト云ヘルモ同ジク一村ノ所有地ヲ村民ニ等分スルヲ云フ、苗ハ蓋シ字ノ一區域ヲ指示セル名ニ出デタルモノナルベシ。

南條郡今泉浦ニ於ケル山分ケノ規定ヲ見ルニ曰ク、
○慶安二年二月十三日
山わけ申定之事節略

「一、代々持來り候山惣中へ出之惣屋なみに當分にわけ取申候上は新儀成掛物并惣中借銀等迄何様之御事御公儀様より出來候共當分に出し可申候今迄の御役儀かかり物先規のことく御納所可仕候事

一、御公儀様より被仰付候通五人組を宛申候間若組之内に徒者御座候はゞ組頭へ理り可申事

一、誰人之山に候其他村と出入出來候はば總中同心仕候て埒明可申候事」

之ヲ以テスレバ、同浦ニアリテハ、從來各自ノ所有タリシ山地ヲ共有トナシ、之ヲ各戸ニ均分シ、貢銀等ニ至リテハスベテ之ヲ平均シテ納入スベキヲ約シタルナリ。

又寛文五年二月二十九日ノ「今泉浦さんばく ○山割 山分申定」ニヨレバ、「一、山を家なみにか

かり可申候事」ノ條項アリ、延寶五年ニ至リ ○正月六日あかり山分取申についての定の事ノ規約ニハ、「一以來役人出來仕

候はは庄兵衛山又四郎山久太郎山右之内より次第に渡し可申候其後出來仕候は、五人組之内鬭取にて相渡し可申候其後者次第次第に鬭取にて渡し可申候」ト定メタリ、ココニ役人ト云ヘルハ、一村ノ費用ヲ分擔シ得ラルル資格アルモノヲ云フナリ。

次ニ延寶三年丹生郡平等村ニ於ケル山分ケノ規定ニハ ○同年三月二十日和たんを以相定證文

「一平等村之山何山ニ不寄右約束之通下系生村入百姓には山土山林共に高に應じ相渡し可申候所により平等村中間にて買定候其所々にて之をも入百姓高に應じ相渡し可申候

一大高小高水役之者共に家一間に柴千束かりてびやうとうにわり渡し可申候但有坪はいのおく道通り日なたびら相渡可申候但向後出來申候家にはとらせ申候事なり不申候但千束づつ取候事入百

姓共に同事に取申筈に候事

一明日より山へたきぎ其外何木によらず入百姓先百姓共に少もきり申間敷候山わり申て主々請取申候山の上は各別に候わり不申候山へ參木大小に不寄此上少にてもきり申候は何様にも越度に可被仰付候事

一買山之儀は入百姓へは高に應じ相渡し可申候平等村之百姓へは少も相渡し不申前々之通山買主へ相渡し可申候平等村先百姓之分むかしより高に山なしの者には唯今もつら山の外は相渡し申間敷候事

一山わり申について何にても出入出來仕候はくじ取仕らち明可申候御事」

ノ條項アリ、即チ同村ニアリテハ村高ノ石數多キニ過ギ、村民間ニ支配スルコト難カリシテ以テ、下糸生村ヨリ入百姓ヲ得テソノ幾分ヲ支配セシムルノ許可ヲ得タリシガ、同時ニ村有ノ山林ノ中一部ヲ割テ、村民并ニ入百姓ノ間ニ均分シタルナリ、但シ規約ノ年以後ニ増加シタル戸口ニハ、之ヲ分配セザルヲ約シタルモノナリ。

以上ノ例ニヨレバ、此等ノ村落ニアリテハ、勘クトモ一村ノ共有若シクハ各戸私有ノ山地ノ全部若シクハ一部ヲ擧ゲテ各戸口ニ均分シ、之ニ對シテ租貢ハ各戸平均シテ之ヲ支拂ヘルヲ知ルナリ、但シ當初此等ノ均分セラレタル今泉浦ニ於ケル總村中相究證文ニヨレバ「一當年迄わけ山の惡敷とて在所へ理りそへ申候唯今より以後山かへ申事罷成不申候間重て何角と山之儀申上間敷候此上ハ面々持山大切ニ仕進退可仕候御公儀御法度之趣相守可申候」トイヘリ、ソノ年月確カナラ

ザレドモ、蓋シ寛文前後ヲ出デザルモノトス、斯クノ如クシテ最初ハ新儀成掛物并總中借銀等ヲ各戸平均ニ負擔スベキ爲メニ山分ケヲ斷行シタリシモノナリト雖、未ダ各戸ニ分割セラレタル分ケ前ヲ或ル期間ノ後更ニ交換シテマデモ、更ラニ不公平ヲ避クルノ手段ニハ出デザリシナリ、然ルニ今泉村ヲ始メ平等村ノ他ノ諸村ニアリテハ、コレヨリ後所謂山分ケト稱スルハ、或ル年數ヲ距テタル後、圖分ケノ方法ニヨリテソノ持前ヲ變更スルコトニシテ、即チ割地ト同一ナリ、即チ或ル時期ノ後ニ到リ持地變更ノ禁ハ維持スル能ハザルニ至レルナリ。

「安永四年八月丹生郡小樟浦みやう帳當浦御高之田畑みやうと號て村中造り申次第相定之事」ノ規定ニ「一、先年ハミヤう永代持之處高下有之候、ニ付五年目ニ圖引いたし持替申答ニ相究申候上は、永々此通相守可申候則享保九年辰七月帳面通り今年相改新帳相替候者也」ト云ヘルハ、明カニコノ種ノ山地ノ割換ヲ説明シタルモノナリトス、御高ノ田畑みやうト號ストアレドモ、實際ニハ山地ナリシコト他ノ山分ケノ諸村ト同一ナリトス、文中享保九年トアルハソノ割換實施ノ初年ヲ云フニアラズシテ、猶ソノ以前ニ施行セラレタルナリ。

之ヲ要スルニ、越前海岸ノ山地ニアリテハ、一村ノ貢租ヲ平均ニ負擔センガ爲メニ、ソノ地ヲ各戸ニ均分シタリ、而モンノ最初ニアリテハ、ソノ割當地ハ變更スルヲ許サズ、永代持ナリシト雖、貢租平均負擔ノ精神ハコノ規定ニアリテハ到底貫徹スル能ハズ、所謂高下ヲ免ルル能ハザレバナリ、故ニ相次デ割換ノ方法ヲ探ルニ至レルハ、亦自然ノコトト云ハザルベカラズ。

圖組數ト五人組トノ關係。割地圖組數ノ標準ニツイテハ、普通ハ割地ノ總高ヲ便宜ノ數ニテ等

分シ、以テ鬪取上ノ組數ニ用ヒタリ、例ヘバ一千五百石ノ草高ヲ有スル村ニアリテハ、一口五十石ノ目安ニテ之ヲ除シ、三十ノ數ヲ得以テ三十ノ鬪組ヲ作リタリ、ソノ標準ハ別種ノ意義アルニアラズ、多クノ場合ニアリテハ計算上ノ便宜ノ爲メニソノ數ヲ採リタルナリ。

然ルニ今山分け苗分け地ノ鬪組數ヲ檢スルニ、他ノ割地慣行地ノ標準ト少シク異ナルモノノ如シ、丹生郡大樟村山分け古圖○元禄年間ノモノカノ一部ヲ見ルニ左表ノ如シ。

畑地	鬪組	山地	鬪組
一番	2	一番	5
二	3	二	6
三	3	三	6
四	5	四	6
五	2	五	4
六	4	六	5
七	4	七	7
八	2	八	6
九	4	九	9
十	3	十	4
十一	3	十一	6
十二	2	十二	9
十三	2	十三	2
十四	5		
十五	5		
十六	5		
十七	7		
十八	5		
十九	3		

即チ畑地一番ヨリ十九番ニ亘レル中、鬪組ハ七ヲ以テ最多トシ、二ヲ最少トシ、山地ハ十三番ノ中、最多九ヨリ最少二ニ至レリ。

又同浦柴山分け帳ニヨルニ、弘化四年ヨリ明治七年ニ至ル間、十回ノ割換ニ際シ、ソノ鬪組ハ十三ノ數ヲ有スルモノ一アルヲ特例トシテ、他ハ八ヨリ三ニ至ル間ニアリ、就中三・四・五ヲ多數トス。

同ジク苗分け帳ヲ檢スルモ、天保八年弘化三年ノモノニハ株三人割四人割ヲ普通トセリ、カカル鬪組ハ何ノ爲メニ起リシヤ、各字地ノ地形平地部ノ如ク坦カナラザルヲ以テ、之ヲ通ジテ一定ノ標準數ニテ割分シ得ラレザル理由ヲモ認ムベシト雖、他ニ主要ナル一原因アルヲ察知

スベキモノノ如シ、即チ當時ノ村落制ニ於ケル五人組ノ關係是レナリ、一村洛ニ於ケル五人組ハ、一ノ單位トシテ一字ヲ圖取リ、該字地ヲ組中ニテ分チ、ソノ結果トシテ如上ノ圖組ヲ表出セシメタルモノニ非ラザルカ、表中尤モ普通ナルハ四・五ノ數ニシテ、以テ當時ノ五人組ノ數ヲ表シ、二・三ノ數ニ至リテハ、字地面積ノ關係上相隣シテ之ヲ分チタルニアラザルカ、寛文五年二月二十九日今泉浦さんばく山分申定ノ條項ヲ見ルニ、「山を家なみに當分に取申候組頭を、宛五人組に仕候事」ト云ヒ、又今立郡岩本村ニアリテハ、村内十戸ヲ以テ一組トシ、之ヲ十人組ト稱シタリシガ、貢租ノ苛重ニ堪ヘザルヨリ、村中ノ百姓ソノ持高ヲ領主ニ返附スルモノアルトキハ、之ヲ十人組ニ抽籤ノ上等分配賦シテ之ヲ支配セシメタリ、割換ノ場合ニハ十人組ノ數ヲ一單位トシテ圖組トナセリ、此等ノ事實モ亦組合トノ關係ガ頗ル密接セルヲ表示スルモノナリ。

割換ト村落制。以上ハ割地ノ起源ニ關シテ、村落制トノ交渉頗ル由來アルコトヲ指摘シタルモノナルガ、ソノ慣行漸ク重ナルト共ニ、ソノ割換ニ當リテハ、村落制トノ關係愈々密接トナレリ、第一ニ割地ヲ稱スルニ内檢ノ語ヲ以テセルコトハ、ソノ名稱ヨリシテ既ニ重要ナル意義ヲ有スルモノナリ、内檢トハ即チ私ノ手ニヨリテ行ハル内々ノ檢地ナリ、蓋シ豐臣秀吉ノ檢地、所謂太閤檢地ハ土地制度ノ一大變革ニシテ、爾來ソノ檢地帳ハ土地ニ對スル絶對ノ憑據トナリシモ、而モ歲次相重ナルニ從ヒテソノ地ニ増減肥瘠ヲ免ルル能ハズ、課税賦課ノ正鵠ヲ期スル上ニ於テ檢地ノ更正ヲ要トセシモ、ソノコト容易ノ業ニアラズ、偶施行ノコトアルモ、村民ソノ檢地帳ニ表ハサレタル名付ノ田畑ヲ用ヒザリシ場合アリシコト、既ニ上述シタル實例ニ徴スベシ、

○寶永四年四月十八日

向新保村きしや。殊ニ減地ノ場合ニアリテハ領主之ヲ行フヲ欲セズ、カクシテ内内檢地ノ必要起リ、
うもん前書之事

遂ニ割換ノ舉トナレルナリ、飽クマデ正確公平ヲ期スルヲ目的トシタリシヲ以テ、ソノ丈量抽籤
并ビニ精細ヲ極メシト共ニ、他ノ一方ニアリテハ一村ノ共同生活ニ對スル便宜ノ爲メニ、コノ割
換檢地ヲ機會トシテ、種々ノ方策計劃セラレタリキ。

足羽郡南居村安永七年度ノ割地帳ニヨルニ

○相極申地檢條
法定帳證文之事

左ノ條項アリ。

「一人々屋敷之内大道添江添小道に不寄若竹木植候節は道不作は不作之所に植出し候はは見付次
第に早速こぎ取可申極此度内檢致候付四壁竹木家廻り御田地掛へ日影と相成竹木御公儀様へ願御
山方御見分之上爲伐候事此末我儘申立置候者は村法に取扱越度可申付候其時村方へ少も恨申上間
敷候事

一山添之田畑峰付之所木を立申間敷候我儘に木立候者過料可取事

一田畑掛りの山峰より高サ九尺通り木を立申間敷事若立置候はは村法可爲事

一旱表に竹木植申間敷事」

末文誓言シテ、「若相背申者御座候はは村役人立合致吟味爲村法と何様之越度被申付候ても少も恨
中間敷候」ト云ヘリ、

之ヲ以テ見レバ、南居村ノ田地割換ニ際シテハ、村法トシテ種々ノ條項ヲ定メ、道路・用水・寺
院敷地・耕作地・道路等ニ關シテ規定シ、殊ニ如上ノ條項ニ表ハレタルガ如ク樹木ノ栽培ニ關シテ
頗ル干涉シタルヲ見ルナリ、モトヨリコレラノコトハ割換ニ際シテ主眼トスル目的ニアラズト

離、延テ割地ノ性質ヨリソノ要件トナレルナリ。

カ、ル村法ハ、割地慣行地ヲ通ジテ行ハレタルコトニシテ、更ニソノ細則ヲ觀フニ足ルモノハ、嘉永五年度ニ行ハレタル、坂井郡下番村ノ畦直シ地置證文ニ記サレタル以下ノ條文ナリ。

「一居屋敷隣之垣之儀ハ高サ三尺五寸と相定垣支配の義は先年より持主の通尤壹ケ年に兩度切拂垣猥りに相成不申様可致候尙又持主方に心得違を以切拂不申時は隣より差圖可致定其節無違滯切拂可申定事附り垣之儀は持主方内より垣修覆仕候時は外に除步壹分外支配仕候時は除步三分

居屋敷に有之諸木枝葉之儀は隣への差障りに相成不申様枝葉竿立にて切拂可申定事

居屋敷内に新規諸木植付候時は垣縁より内に取込植付可申候此末末迄枝葉竿立にて切拂申了簡シテ植可申事

古川落の堤道の儀者畑主に爲持割渡し可申候尤堤道諸木植付申間敷定之事但し女竹は構無之候事田畑惣道の儀は別紙横帳之通畑方は小道五分定田方之儀は上幅五分定但双方より年番に根付可仕候尤道幅畔端共缺にて削申間敷候鎌にてかり可申定之事

田方畦之儀は裏畦と相定畦幅貳分定但水戸口之儀は畦壹本に付壹口宛猥りに切明け申間敷候定事野畑濱成之堀縁に有之候諸木伐り拂可申定但地割内檢相濟候上諸木植間敷事」

以下細則猶ホ十數條ヲ數フレドモ今省略ニ從フ。

而シテコノ割換ガ、カクノ如ク田區ヲ改正シ、用水ヲ整理シ、道路ヲ修築スル等頗ル大規模ニ亘レルヲ以テ、ソノ費用時日勞力ヲ要セルコト少々ナラズ、左ノ證書ハ割換資金ノ借用ニ關スル

モノナリ。

「近年本田荒地場所地平均可仕人足日用賃借金證文之事

一さき田口ほうそ半田本田近年川缺荒地場所金子何程成共相談次第借立地平均可仕候則此金高子割に仕本利共に返還可申候(下略)

元祿十四年己八月二日

向新保村庄屋與左衛門

(以下二十九名略)

斯クノ如クニシテ割換ヲ慣習トスル村落ニ於テハ、割地ハソノ村落制ト全ク融合シテ、一ハ當初ノ目的タル納貢ノ公平ヲ期シ、延テソノ共同生活上ノ利便ヲ享有スルニ至レルナリ。

現今ノ割地慣行地。割地ノ慣行カクノ如ク久シキニ亘レルヲ以テ、ソノ餘習ハ現今猶行ハルルモノ渺シトセズ、然レドモソノ割換地ハ、舊時ノ如ク飽ク迄村民間ノ公平ヲ期スル爲メニ、田畑以下山林宅地ノ各地類ニ亘リテ割換ヲナサズ、多クハソノ必要ニ迫マラレタル連年ノ水災地タル堤外地等ニ於ケルノミ、但シ第二項ニ敘述シタルみやう地ニ於テハ、猶頗ル詳細ナル規約ヲ設定シテ舊慣ヲ維持シ、現ニソノ方法ヲ嚴守セルモノ數多アリ、今一例トシテ明治二十五年十月丹生郡小樟浦苗地ニ對シテ定メラレタル規約書ノ中、ソノ要項ヲ示スコト左ノ如シ。

共有地中みやう地維持法申合規約

一闔村共有地中舊來ヨリみやうト稱スル畑ハ舊高六十八株ニ區分シ土地ノ肥瘠ニヨリ地子金ニ等差ヲ附シ五ヶ年ヲ期トシ闔引ヲ以テ村內本籍住民ノ者ヘ貸渡シ而シテ年期明ノ節ハ村總代人ヘ

地所ヲ返納致サセ村總代人ニアリテハ其ノ年現在ノ戸數ヲ以テ算則トナシ戸數ノ増減ニヨリ地所分裂合併ノ矯正ヲナシ更ニ闢引ヲ以テ五ケ年間地所ノ持替ヘヲナサスルヲ舊來ノ習慣トス

一 闢村共有地ノ貸賃料(即チ地子金ヲ云フ)ハ五ケ年間均一ノ算則ヲ以テ年期明ノ節村方立會協議ノ上翌五ケ年間ノ貸賃料ヲ定ムルモノトス

一 共有地借受人ハ借受ケ地ニ係ル地子金ハ年期中ハ定額ノ通り毎年十二月限り村總代人ニ相納ムベキコト

(中略)

一 共有地中宅地ハ村民永設ノ家屋ヲ建構スルモノナレバ村内ニ非常ノ變アルトモ取揚ルベカラズ

一 山林原野ノ地ニ勞費ヲ加ヘ自辨シテ開墾ヲナシ村民適宜ニ私用スルトモ畑地ニ限り五ケ年明即チみやう改正ノ期ニハ村方ヘ取揚ルモノトス

但宅地田地船揚場等ノ類ハ此限りニアラズ

一 村民各自勞費ヲ以テ開墾ヲナシタル田地船揚場宅地其他物置場空地等ノ類村内ニ非常ノ變アリ賣買セント欲スル時ハ村民一統協議ノ上公ケノ入札ヲ以テ賣却スルコトアルベシ若シ賣却セントスルトキ借受人ヨリ買受ケ方願出ルトキハ立會協議ノ上賣渡ス事アルベシ

一 御高共有之みやうト稱スル田畑地ハ往古ヨリ深意ノ習慣法アル土地ナレバ其期間ノ砌租稅并村方協議費等ノ割當ヲ村法ニテ足割戸數割等ノ分擔ヲ均一ニ上納セサルモノ尙近來ニテモ其舊來ノ習慣法ヲ以テ割當ヲ受ケサルモノハ譬ヘ共有地ト雖モ五ケ年改正ノ土地ニ限り闢引ノ中間ヘ

ハ入レサルモノトス

但シ圖引ノ中間ヘ入レサルモノハ共有地租税并ニ雜費ノ割當ヲ受ケサルモノトス

一前數箇條ハ享保九年辰七月帳面通ヲ安永四年未八月調ニテ謄寫シ又天保八年酉正月調ヲ以テ謄寫シタル古帳簿ニ據リ本村舊來ノ習慣法ヲ觀察シ立會協議ノ上御高共有地維持法ヲ改正決定ス
(下略)

明治二十五年十月一日

丹生郡四ヶ浦村小樟

區長以下十一名連署

村中連判

斯クノ如キ慣習法ガ、今猶村法トシテ確守セラレ、未ダ之ガ爲メニ一ノ規約違反ヲ見ザルコトハ、頗ル興味アル問題タルヲ失ハズ、本稿ヲ終ルニ當リ、之ガ條文ヲ摘記シテ以テ學者ノ一瞥ヲ冀ハント欲スル所以ナリ。
(大正六・八・七)